

## 塗装・引渡前クリーニング

この度は弊社の無垢フローリングをご採用いただきまして誠にありがとうございます。  
床材を最良の状態でご使用いただくため本書をお読みいただいた上、正しくご施工ください。

### 植物性・自然オイル・ワックスの施工要領

#### 1) 素地調整

- ・ 塗装前に床材表面を清潔にし、十分に乾燥させ、平滑にしてください。
- ・ サンドペーパー＃240以上で表面を研磨し、肌触りのよい面に仕上げてください。
- ・ 床材の樹種によって、サンドペーパーによる研磨が必要ない場合があります。詳しくは弊社までお問い合わせ下さい。

#### 2) 下塗り---リボス社・アルドボス使用の場合

- ・ 布または刷毛で、木目に沿い（長く太い線を描く感じで）出来るだけ薄く均一に塗布してください

#### 3) 拭取り・乾燥

- ・ 約 10 分後に、吸収されなかった余分なオイルを毛羽立ちのない布で拭取ります。  
ムラがなくなり美しい仕上がりになります。
- ・ 風通しをよくし、約 12 時間乾燥。気候湿度などで多少乾燥時間が異なります。
- ・ 1 回塗りをした乾燥後に、＃ 320 サンドペーパーで軽く研磨して上塗りを行うと美しく仕上がります。

【○-表面張力がある】

【×-つぶれる、しみる】

撥水効果のチェックとして、水滴をたらし表面張力をご確認ください。

#### 4) 仕上げ塗り・ 最終塗布後、クノスで仕上げると、かなりの撥水効果が得られます。

#### 5) 留意点

- ① よくかき混ぜてから御使用ください。
- ② 木の種類によって、色・つや・仕上がりは大幅に異なります。



### 危険 !!!!! 注意 !!!!!

**オイルを含んだウェス等は、乾燥の際に発生する熱により、自然発火する恐れがあります。ごみ箱に丸めて入れると危険です。**

**施工後、放置せずに、すぐ水に浸してください**



## 塗装・引渡前クリーニング

### お引渡し前のクリーニング

施工時には、想像以上にホコリや細かな粉などが発生します。快適に、気持ちよく使っていただく為、お引渡し前のクリーニングも適切に行いましょう。基本的には、細かなチリやホコリを丁寧に取り除き、ワックスをかけてください。

#### フローリングの塗装種類を事前に確認

適切なワックスを選ぶ（必ず各メーカーの使用注意事項をご参照した上、ご使用下さい）

| ワックスの種類      |    | 浸透性塗装 | コーティング系塗装 |
|--------------|----|-------|-----------|
| ロウ系<br>ワックス  | 水性 | ○     | ○         |
|              | 油性 | ○     | ○         |
| 合成樹脂<br>ワックス | 水性 | ×     | ○※        |

※無垢床用をお使いください。ワックスを直接床に撒いて使用せず、トレーなどに出して少量づつお使いください。

浸透性・植物オイル塗装仕上商品の使用ワックスについては、同種類のワックスを使用することは原則です。

#### 浸透性塗装

塗布後は必ず、きれいなウエスで“ふき取り”を行ってください。特に、水性タイプの場合はふき取りを行わないと、ワックス中の水分がフローリング材に入り込み、膨張、毛羽立ち等の原因となりますので、ご注意ください。

#### 使用ワックスについて、弊社までお問合せください

合成樹脂系ワックスの使用は絶対に避けてください。浸透性塗装の風合いが損なわれるとともに、塗装とワックスが密着せず、ワックスが剥離する恐れがあります。

#### <使用の際の注意点>

- ・ワックスを使用になられる場合は、必ず端材などで試し塗りをしてからご使用ください。
- ・メーカーによって、クリーナーに含まれるアルカリ性の成分と木材中のタンニンや鉄分と反応し、変色する場合があります。

#### コーティング系塗装（ウレタン塗装、UVコーティング）

合成樹脂系ワックスは、ツヤ出しタイプが主流です。ツヤを抑えたい場合はロウ系を選んでください。

合成樹脂系ワックスを使用される場合は、無垢床用をお選びください。特に水性タイプを使用される場合は、**水性タイプを直接床に撒くような使用方法は、絶対に避けてください。フローリングの隙間から水分が入り込み、膨張・変形・変色の原因となります。**

👉 **施工後の養生については、『施工マニュアル』をご参照ください。**

**施工後の養生を適切に行うことで、クリーニングの手間を大幅に軽減することができるとともに、思わぬトラブルをも回避できます。**



## 塗装・引渡前クリーニング

### 浸透性塗装（自然オイル、ワックス）のよくあるトラブル解決法

浸透性塗装の場合、木肌をそのまま活かした塗装のため表面に塗膜をつくりません。そのためコーティング塗装では生じにくい、“石膏ボードの粉が木目に入り込んでしまった”などといった症状が起こることがあります。

適切な養生さえ行えば、ほとんど回避できますが、万一の場合の対処方法を知っておくと、慌てず対処することができるため安心です。

掃除機で吸い取るか、コンプレッサーを用いてエアで吹き飛ばしてください。それでもとれないようなら、#180～240 程度のサンドペーパーでサンディング※<sup>1</sup>を行い、同種類の塗料を再塗装※<sup>2</sup>してください。

#### ● 養生テープの跡が残ってしまったら

養生シートや養生ボードを留める際に、養生テープをフローリングに直接貼ってしまうと、テープの粘着部分が付着してしまうことがあります。

特に夏場など、気温の高い環境では粘着成分が溶け、それが木目の中に入り込んで、跡が残ってしまいます。

そうした場合、リボス強力クリーナーを使用すると粘着成分を取り除くことができます。その後は同じ塗料で再塗装※<sup>2</sup>してください。その部分が日焼けしてしまっている場合は、下記の“日焼けによって色の差が生じてしまったら”を参照ください。

#### ● 毛羽立ちがおこってしまったら

毛羽立ってしまった場合、部分的であればストッキングなどにウエスを詰めたもの、あるいはスポンジの硬い面でこすり毛羽立ちを取り除き、部分的に薄く同一の塗料で再塗装※<sup>2</sup>してください。全体的に生じた場合は、#320～400 程度の目の細かいサンドペーパーで木地調整※<sup>1</sup>し、同種類の塗料を再塗装※<sup>2</sup>してください。

#### ● 白濁してしまったら

落ちないようなら、#180～320 程度のサンドペーパーで削り取り※<sup>1</sup> 同種類の塗料で再塗装※<sup>2</sup>してください。

#### ● 日焼けによって色の差が生じてしまったら

日焼けによって色の差が生じてしまったら、色の境目の部分を 10～20cm の幅で #180～400 程度のサンディングペーパーでサンディング※<sup>1</sup>し、同種類塗料で再塗装※<sup>2</sup>します。対処直後は、色の差が少し分かりますが、数週間も経つと色の差が自然に馴染んできます。サンディングの際、強く削るのではなく、軽くぼやかす程度に行くと自然な仕上がりになります。

\* 1 サンディングに関する注意点：サンディングは木目に沿って行ってください。

\* 2 再塗装に関する注意点：再塗装する場合は、同種類のオイルを使用してください。オイルを少量に塗りこむように塗るのがポイント。既に一度塗装をしているため、大量に塗りすぎるとべたつきの原因になります。必ず、塗装しながら、きれいな乾いたウエスで余分なオイルをしっかりとふき取りを行ってください。

**専用の自然オイルについては、弊社までお問合せください。**

本書記載の内容については、ご不明な点がございましたら、弊社までお問い合わせください。